

公明党視察報告書

視察先	高知県高知市
日 時	令和元年 10 月 30 日（水）・31 日（木）
場 所	高知ちばさんセンター
テーマ	基調講演「現代政治のマトリクス＝リベラル保守という可能性」
対応者 （講師）	東京工業大学リベラルアーツ研究教育員教授 中島 岳志氏
概 要	現代政治のマトリクスとリベラル保守という可能性。

現代の政治がどのような流れの中にあるのかについて講演を行って頂いた。
「縦」「横」の軸の表を通しての講演であった。
「縦軸」・・・現代の政治が「大多数の社会」なのか「少数の個人」なのか？
「横軸」・・・リベラル・自分と他者との思想の違いがあっても、その相手に対して寛容であり介入しないでいること（自由主義）である。
このリベラルの反対はパターンルと言ひ、強い者が他者に介入していく事である。
「縦軸」「横軸」を通し、現在の日本政治がどうであるかの講演であった。

主な内容は
自民党の 50 年と、野党の動きとして・・・
1960 年代～70 年代の自民党は地方で選挙基盤を築いてきた。しかし、その選挙基盤のある地方から都市部へ人口が流れはじめ、その人たちが都市労働者層となり「革新政治」社会党の大きな支持基盤になってきた。その後、東京では「革新都政」「革新自治体」となり、自民党はこれを危機と感じ、都市や地方に対して「列島改造論」などの政策を打ち立て、自民党の基盤を守り始めてきた。
その後、「福祉」を中心に力を入れてきたが、中曽根内閣になり「官から民へ」等の国鉄民営化などが進められるようになり、1990 年代には「規制緩和」「構造改革」など、小泉内閣・安部内閣が「価値」を求める政治に移行するようになってきた。

その後、自民党への「対抗軸」として「野党」が時代とともに力を付けたり、自滅したりする時代が続いた。
そして一時政権の真ん中にいた「民主党」が求心力を失い「希望の党」が誕生した。しかし、何をするのか？したいのか？分からない政党であった為、「希望の党」ではなく、「反自民」を掲げた「立憲民主党」が誕生した。

「立憲民主党」は国民に「立憲民主党はあなたです！」と呼びかけ、支持を集めた。
これは「ラディカルデモクラシー」と言い、「自分の声を政治へ届けてくれる」と国民が感じはじめるようになる・・・しかし実際は「国民民主党」と「立憲民主党」のどっちが野党第一党であるかを競っているように国民に見え、いつの間にか声が届かなくなり「自分たちの声が、直接的に政治家を動かしていない事」に国民は気づき、支持率も 12%～8% へ下がってしまった。

その後出てきたのが「山本太郎」である。山本太郎も「ラディカルデモクラシー」の政治拡大を行っているが、山本太郎は明確な対抗軸（敵）を作り戦いを挑んできた。一票に何の価値があるのかと思う国民を立ち上がらせる「闘技デモクラシー」が、「山本太郎」である。

立憲民主党はタウンミーティングやグループワーク等の小さな声を反映させる政治参加の「熟議デモクラシー」である。

今後、熟議デモクラシーと闘技デモクラシーがどのようなバランスをとりながら政治を進めていくのが野党の行うべき道である。

所 感	
-----	--

市議会議員として「市民重視の政治」や「福祉政策の充実」への取り組みではなく、自民党、安倍内閣のあり方や、希望の党がなぜ失敗したのかを通じ、過去から現在の政治（与党・野党）の流れがどうであったかの講演であり、大野城市民と自分にとって必ずしも必要である内容でなかったと思えた。

しかし、一つ言われたことが心に残っている。

それは・・・「政治は60点で良い！それは100点だと「自分に間違いは無い」と勘違いし、異論を受け付けなくなるからだ！」と言われた。

市民の代表として選ばれた議員として、様々な思想や意見を持つ住民の方々の想いに耳を傾けていける議員にさらになりたいと感じた講演であった。

画像（略）

画像（略）

—作成者 河村 康之 —

視察・研修報告書

視察・研修先	第14回全国市議会議長会研究フォーラム
日時	令和元年10月31日
場所	高知ちばさんセンター
テーマ	「議会活性化のための船中八策」
対応者 (講師)	コーディネーター(坪井ゆづる氏) 朝日新聞論説委員 事例報告者 (滝沢一成氏) 上越市議会議員 (久坂くにえ氏) 鎌倉市議会議長 (小林雄二氏) 周南市議会議長
概 要	
<p>一、上越市議会 市議を目指しやすい環境整備への提言 (滝沢一成氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市議を目指しやすい環境整備検討会の開催 (市議を目指しやすい環境とは何か、その整備に向けて「市議を目指すことを阻害する」現状の要因を把握し、その改革案を策定すること) ・市民との意見交換会の開催や議員アンケートを行い、「市民に関心を持ってもらう理解してもらう」、女性へのアプローチというところで取り組むべき7項目をあげた。 <p>①議会傍聴の改革・活性化 ②模擬議会、議会体験学習の実施 ③意見交換会の改革 ④広報PRの充実 ⑤選挙マニュアルの作成 ⑥議員報酬の適正化 ⑦女性フォーラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ 「議会改革推進こそ、議員を目指す人々を獲得する最大の力」 <p>二、女性議員の現状の視点 (久坂くにえ氏) 鎌倉市議会議長 顕在化した課題として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議規則の中で出産が欠席事由として記されていない、また期間の明記もない。 ・環境整備にむけて <p>①出産に伴う議会の欠席に関する規定について取得期間及び運用についての考え方を明示 ②子の看護休暇に関する規定の整備 ③配偶者出産休暇の取得</p> <p>三、周南市議会事例報告 (小林雄二氏) 周南市議会議長 周南市議会の議会改革の目標 「市民に開かれた市議会」(議会活動への市民参画を促す。市議会に関心をもってもらおう。 キーワード「公開と対話」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政監視機能の充実(所管事務調査及び指定管理者調査) ・各種委員会と各種市民団体との懇談会の開催 ・議会提案による政策条例の制定 ・周南市議会の情報公開 	
所 感	

議会活性化のために全国 1788 議会へアンケート（朝日新聞）を実施した内容によると女性ゼロ議会がまだ 2 割もあること、議員のなり手不足が全体の 27%で課題となっていること、議会基本条例を制定しているは 63.7%であった。

今後は、議会の意思を可視化してゆくことが重要である、また、様々な問題を議員間討議で何度も繰り返し合議形成を行いより良い議会を目指すことが大事である。

作成者 神田徳良

公明党視察報告書

研修	高知県高知市
日時	令和元年10月31日(木) 午後1時10分～4時
場所	高知市内視察箇所 ・オーテピア ・舟倉地区の津波避難センター
テーマ	「大規模災害に備え、市民の生命と財産を守り、まちの安全を高める取組事例」
対応者 (講師)	施設案内：オーテピア事務職員3名 ：高知防災対策部(地域避難所関連職員 代表・大山悟氏)
概 要	
<p>◆目的◆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震（1944年）及び昭和南海地震（1946年））が発生してから70年以上が経過し、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっている。太平洋沿岸地域である高知市は地震による津波発生を想定しているが、避難場所となる自然地形の高台や建物が無いため、避難困難エリアが含まれる地域に津波避難センターや津波避難タワー等の避難施設を整備している。また、地域防災拠点の整備や地域防災力を高める人材育成など、自助・共助の取り組みが進んでいる。 <p>本市は令和元年11月30日(土)に「大野城市民総ぐるみ防災訓練」が実施される。初の試みであるが、高知市の視察で得た地域防災の取り組みを参考し、検証・改善していきたいと考える。</p> <p>※南海トラフ地震は、概ね100～150年間隔で繰り返し発生している。</p> <p>◆高知市の防災対策について◆</p> <p>◆基本理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害とは、外力が人間生活に影響を与え、被害が生じる事態である。 ・災害の種類は①自然災害(雨、風、雪、雷、地震、噴火など)と②人為災害(原因となる各種事故、テロ、戦争など)の2種類に分ける。 ・防災とは、事前に災害が発生しないようにする取組(被害抑制)、発生した被害の拡大を防ぐようにする取組、発生前の状態以上に戻す取組(被害軽減)とし、自然現象の発生は妨げないが、災害は防げると考える。 ・高知市の災害の定義は、外力から防災力をひいた事態が災害と考える。 <p>■津波から命を守る避難対策(3本柱)などの取組事業■</p> <ul style="list-style-type: none"> ○津波が来ない自然地形の高いところに逃げる。 ○避難三原則「想定にとられるな」「最善をつくせ」「率先避難者になれ」をもって、災害時に主体的に行動できる自助《自分のいのちは自分で守る》に徹する。 ○津波から命を守るための事業を整備する。 <ul style="list-style-type: none"> ①地区別津波避難計画の策定 <ul style="list-style-type: none"> ・津波から避難する際の避難可能時間時間を算出している。 ・指標設定：避難歩行速度を1.0m/秒を目安とする。(通常2.0m/秒) ：夜間の場合の想定値 $0.74 \times 0.8 \div 0.6 \text{m/秒}$ 	

東日本大震災の実績値 $2.65 \text{ km} \times h \div 0.74 \text{ m/秒}$

: 安全側を取り最小値となる 0.6 m/秒 (36 m/分) を避難速度と設定

②津波避難路(242 か所)及び避難場所の整備

- ・ 指定緊急避難場所数: 486 か所
- ・ 指定避難所: 236 か所

③津波避難ビルの指定

- : 津波からの避難が遅れた避難者などが緊急に避難するための建物
- : 鉄筋コンクリート又は鉄骨鉄筋コンクリート造(新耐震設計基準)
- : 3階以上、避難場所は4階以上(3階建は屋上)

■視察箇所の特徴■

◆オーテピア◆

- ・ 高知県と高知市が全国初の合築により共同整備した新図書館複合施設を視察。災害時にも安心・安全場所として、地震の揺れを軽減する免振構造と緊急避難所(津波避難ビル)機能を確保している。

◆舟倉津波避難センター◆

- ・ 津波発生の場合、避難困難エリア地域と想定される舟倉地域にある施設「舟倉津波避難センター」を視察。
- ・ 地区別津波避難センター内を住民が普段から使用していた。もし、災害が起き避難生活になった時、住民が施設内を知り尽くしていた方が住民主体の避難生活ができるからである。高齢者の中には、非常持ち出し用リュックを施設に預けるなど市民の防災意識の高さがうかがえる。
- ・ 施設の施錠は、地域の方が管理し、万が一のために隣接する保育所に鍵を預けている。施設内に入る時に、スロープ状で3階の集会室に入所できるようになっているので、車いすでの移動が可能であるなどバリアフリー化されハード面での備えが整備されている。
- ・ 舟倉津波避難センターのように、高知市は近くに自然地形の高台や高層建築物の無い津波避難困難地域に対して、津波避難タワー等の避難施設を整備
 - 津波避難タワー 9基(収容人数合計: 3,349人)
 - 津波避難センター 3棟(収容人数合計: 1,882人)

■市民意識調査の結果■

◆あなたは、地震対策として何を準備しているか?の問いの結果◆

- ・ 非常持ち出し品の準備 43.4% ・ 食料等の備蓄 31.8%
- ・ 何もしていない 30.9% ・ 家具の転倒防止 29.0% ・ 住宅の耐震化 17.9%

■女性の視点をいかす防災対策■

- 高知市では東日本大震災などの事例を教訓に、女性職員のみで構成する「高知市女性の視点による南海地震対策検討委員会」での検討結果を提言としてまとめ、平成25年12月9日に市長に報告後、解散。

その後、平成 26 年 5 月 1 日に同じく女性職員のみで構成する「高知市女性の視点を防災対策にいかすためのフォローアップ委員会」を設立。検討委員会で出た提言が高知市の防災対策へ反映されているかこの委員会で検証している。

生活に身近なことから取り入れてもらえるように、『家の中の安全対策』『災害時の食事の備え』『災害時のトイレ・衛生対策』『防災に役立つ情報』という 4 種類のリーフレットを作成・啓発活動に活用するなど、地域での啓発活動等を行っていた。平成 28 年 4 月 18 日これまで 2 年間の活動成果をまとめ、市長をはじめ幹部職員に報告を行っている。

所 感

- 「自然現象の発生は防げないが、災害は防げる」という基本理念を机上論でなく、住民が自主的に考える機会を設ける参画型・実践型は、本市も参考にできる。視察を終え、大野城市の防災対策の参考になればと、下記の疑問を感じたので今後も調査研究をしていきたい。
- ・大野城市・地域住民が一体となった防災訓練を定期的実施するのであれば、平日昼間、夜間、休日など様々な状況を想定し、保育所・幼稚園・小学校・中学校・商店・自主防災組織等と連携し、住民による災害対応の学習機会を設けるべきではないだろうか。(地域の防災訓練時に、妊産婦や乳幼児の保護者の参加を見るのがほとんどない)。
- ・高齢者によっては、「逃げたくない」という方の声を聴く。助けに来る周りの人の命も関わってくることを理解してもらおうなど、避難意識を育てることが不足していると考える。
- ・地域全体で応急手当法や防災倉庫にある資機材の使用法、避難所運営などについて学び、総合的な災害発生シミュレーション、地域の実情にあった災害発生時の対応等について訓練することがまだ十分とはいえないと感じた。
- ・災害時に避難所を円滑に開設・運営できるように、地域の実情にあった運営組織・避難所開設運営マニュアル等は作成されているのだろうか。女性が参画しやすい環境を整え、各避難所運営マニュアル等の普及啓発に努めることが大事ではなかろうか。

【添付資料】

- 高知市の防災対策について
- 津波避難施設位置図

—作成者 大塚 みどり—